

# 小中一貫教育コラム [秋田県] 北秋田市教育委員会 「地域との3年間の話し合いから生まれた義務教育学校」

## 義務教育学校9年間の学びから地域を支える人材の育成 教育長 佐藤 昭洋

北秋田市において、少子高齢化に歯止めがかからない中、阿仁地域においては予想を上回る勢いで児童生徒数が減少している。だからといって地域が疲弊しているわけではなく、他県等からの移住・定住者は、5年間で18世帯、26人と、年々増えてきている現状がある。それは、豊かな自然と共存してきた人々の歴史や文化が受け継がれているからだ考える。

私が教育長就任前の本プランの策定時に、大阿仁地区の説明会に参加した女性から、「学校が無くなるということは、私達の子供たちに、ふるさとに帰っておいでと言えないということですか。」という発言があったと、当時の新聞記事を見て深く考えさせられた。学校統合は、子供たちだけではなく、地域の存続にも関わる大切な問題であるという認識を持って、平成29年5月に教育長に就任した。あれから5年目にして、ようやく義務教育学校という方向性を、地域の方々と協議の中から提示することができた。義務教育学校は、全国的に大きな規模の学校が多いが、私は、ふるさと教育・キャリア教育や一人一台端末の活用を踏まえた上で、統廃合の選択肢の1つとして大きな役割を果たすと考えている。小規模校ならではの個に応じたきめ細かい指導、自分たちで学びを進め・深める学習、地域と一体となった行事の運営、地域の伝統芸能の継承活動、ふるさと教育の推進により地域に貢献する子供の育成、これらは9年間の学びの中でこそより実効性の高いものになっていくと考えている。中学校教諭の免許を持つ教員が、前期課程の教科指導に積極的に関わることで、複式授業を解消し専門性の高い教科指導を受けることも可能となる。小中併設型ではなかなか払拭できない、小学校教諭、中学校教諭という意識を、義務教育9年間の教諭であるという教員の意識改革をし、子供たちの発達段階に即した指導ができた時に、教員の力量が向上し、子供たちに大いに還元されるものと考えられる。

1年生に入学したときから9年生の姿を目標にし、9年生は1年生を優しく導いていく。様々な年齢層から成り立つ社会にあって、学校も決して例外ではない。思春期と言われる多感な時期だからこそ、連続した学びや人間関係が求められると考える。豊かな自然、温かい地域の人々との関係の中で、義務教育学校の教育活動が行われた時に、ここで学んだ児童生徒は、将来、地域を支える人材として成長し、この学校が地域の活性化にも寄与することを信じてやまない。



ふるさと学習で地域の方と製作した「クロモジ茶」の販売体験活動（大阿仁小）

## 義務教育学校という方向性に至るまでの背景

### 1 北秋田市小中学校適正規模・配置再編プラン（H29～R13）（以下「本プラン」という）の策定／平成28年度

- 市民17名による検討委員会を組織
- 目的：環境の変化、地域の実情等を踏まえつつ、＜学校の一層の活性化・過小規模校の解消＞
- 市の考える適正規模  
「小・中学校とも学級替えができる規模（1学年2学級以上）」  
としながらも、通学距離を考えると無理が生じるため、複数のグループ編成が可能となる  
「1学年1学級であっても20人程度の児童生徒がいる規模」を適正規模の範疇としながら  
「過小規模校の解消（＝複式学級の解消）」を目指した。

森吉地区（旧森吉町）と阿仁地区（旧阿仁町）の統合に保護者・地域住民の合意が得られず本プラン策定時点で未定

統合の可否・妥当性・在り方・方向性等について、保護者や地域住民との話し合いを継続  
視点：子供の教育、地域活性化等

### 3年間を目処に決定

### 2 平成28年度の学校の状況

※以後学校名を丸数字で記載

旧町地区	学校名	建築年	普通学級数	児童生徒数	遠距離通学者距離	学校間距離	統合等に係る保護者や地域住民の意向等
森吉地区	①米内沢小	H24	6	128	8.6km	②へ10.4km ※	本プランの対象外校
	②前田小	H18	6	55	5.3km	①へ10.4km ③へ 8.0km	阿仁地区から来るのは拒まない 統合するとしたら統合先は①米内沢小へ
	⑤森吉中	S48	5	114	17.6km	⑥へ15.5km	校舎の改築を希望
阿仁地区	③阿仁合小	S51	4 複式2	31	10.9km	②へ 8.0km ④へ15.0km	②への統合、④との統合、②④と統合して通学距離が真ん中(③の地区)に統合校新設をとの3つの意見
	④大阿仁小	H6	4 複式2	27	9.3km	③へ15.0km	統合には反対、③との統合はやむを得ないと2つの意見
	⑥阿仁中	S48	3	46	22.5km	⑤へ15.5km	できるだけ早く⑤との統合希望

統合はやむを得ないとしても、統合単位として学校種ごとで②④、⑤⑥という方向性など、様々な意見があった。

### 3 本プラン策定時に示した過小規模校のプラス面・マイナス面

#### 過小規模校のプラス面

- ・ 個に応じたきめ細かな指導が可能
- ・ 異学年活動が多いことから見習ったり、手本となる心が育つ
- ・ 間接指導で子供の自主性が育つ
- ・ 活躍する場面が多く、積極性や自主性が育つ
- ・ 地域住民との交流やふるさと学習を進めやすい
- ・ 地域住民に大事にされて育つ傾向



#### 過小規模校のマイナス面

- ・ 学年の人数、男女比に偏りが生じることが多い
- ・ 学習内容を子供同士で深めあったり、協働で成し遂げる経験が不足し、人間関係が固定化
- ・ 活動場面が多いことが子どもの負担になることも
- ・ 競争意識が育ちににくい傾向
- ・ 子供同士で学習を進める習慣をつけなければ間接指導時に学習が不成立
- ・ 複式授業の教師の指導の困難さ

### 4 3年間の取組

#### (1) 保護者や地域住民との話し合い

- H29.9～「今後の小・中学校の在り方について意見を聞く会」：保護者や地域住民の意向を伺う(4回)
- H31.1～「学校の在り方・方向性を考える意見交換会」：各地域の意向を伝えながらの協議(8回)
- R元.4,R2.3：「学校の在り方・方向性についての説明会」：教育委員会事務局からの提案(2回)
- 対象：地域住民<保護者を含む>(7回)、小・中保護者のみ(5回)、保育園保護者のみ(2回)
- 話し合いで出された主な意見の概略

#### 統合に反対

- ・ 小学生の通学に係る距離(最大32.3km)、時間を考えた時に、前田小への3校統合(②③④)は反対。
- ・ 小中併設型でも良いので阿仁地区に学校を残して、③④⑥の小中一貫教育校に。
- ・ 教師が大変だという理由で、複式学級のない規模でと言うが、3校統合(②③④)してもいずれ複式学級ができる。
- ・ 学校がなくなると地域が衰退する。

#### 統合に前向きな意見

- ・ 小学校3校を統合(②③④)して通学距離が真ん中になるところに設置。
- ・ 部活動などを考えると、中学校は早めに統合(⑤⑥)。

#### (2) 教育委員会としての取組

- 保護者や地域住民との話し合いの設定→主に18:30以降の時間帯に学校や公民館を会場に
- 過小規模・複式授業のメリットを生かし、デメリットを減らす支援
  - ・ 個に応じたきめ細やかな指導による高い学力を維持
    - 全国学力・学習状況調査で全国平均を100とした2教科併せた7年間(H25～R元)の平均③④⑥の3校とも120%程度
  - ・ 小規模校特任教諭(複式指導に優れた教員：小規模校加配)の配置(複数校兼任発令)
    - 担任の複式授業力の向上、間接指導時に児童が自ら学ぶ力の育成
- 他校との遠隔授業によるコミュニケーション能力の育成
  - ・ R元年度より研究実践開始：ネット環境等の整備から
- 郷土資料集の活用によるふるさと教育の推進
  - ・ ふるさと学習のための郷土資料集「きらり☆きたあきた」を作成し、全小中学生に配付
- 先進校視察
  - ・ 県内1校の義務教育学校である井川義務教育学校を視察



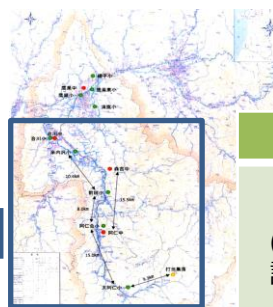
郷土資料集「きらり☆きたあきた」

**14回の話し合いを経て、阿仁地区(③④⑥)に小中一貫教育を行う学校を造ることで合意し、本プランの方向性を教育委員会で決定**

### (参考) 市町村概要

#### 1 市の概要

秋田県北秋田市  
H17.3合併(鷹巣町、合川町、森吉町、阿仁町)



面積		1152.76km <sup>2</sup>
人口 (国勢調査)	H17	40,049人
	H27	33,099人
	R2	29,973人

#### 2 小・中学校の状況

学校種	H17 (合併時)		H28 (本プラン 策定時)		R3 (現在)	
	校数	人数	校数	人数	校数	人数
小学校	16校	1,937人	10校	1,234人	9校	1,033人
中学校	5校	1,079人	5校	654人	4校	564人